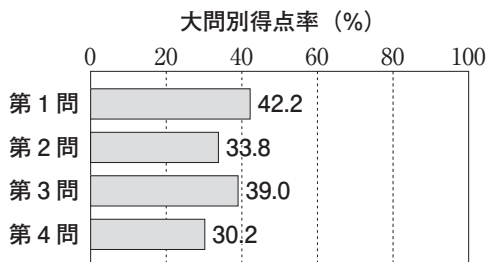
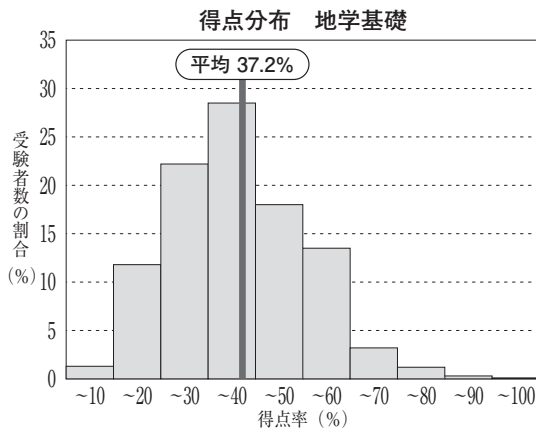


# 地学基礎

教科書の内容の完全理解を目指そう。

## I. 全体講評

今回の得点分布は、次のようになっている。平均点は18.6点であった。2月時点で一通りの学習を終えている受験者も多かったと思われるが、十分に演習を積み、知識を定着できている受験者はまだ少なかったようである。「地学基礎」は「地学」に比べて学習項目が少なく、教科書をしっかりと理解することで十分に満点を狙える科目である。一つ一つの知識を確実に身につけて、着実に得点を伸ばしていくようにしよう。



## II. 大問別分析

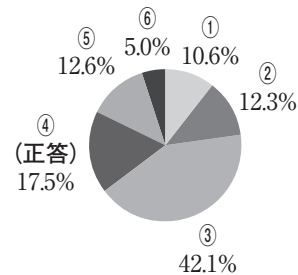
### 第1問 活動する地球

暗記ではなく、理解して覚えよう。

Aでは地震の観測についての総合的理解を確認した。解説を参考に、P波・S波の速度と初期微動継続時間から震源距離を求める計算法を確認しておこう。

Bでは岩石の形成と分類、特徴的組織についての総合的理解を確認した。岩石名や組織名を覚えるだけでなく、実物を手に取ったり、実際に薄片を顕微鏡観察したりする機会をもってほしい。

### 問5 5 各選択肢の選択率



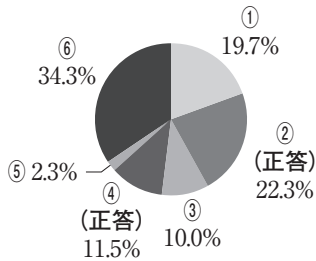
※注) 無回答・マークミスは割愛したため、選択率の合計は100%にならないことがある。以下同様。

### 第2問 大気圏の構造

大気圏の構造に関する知識を整理しよう。

大気圏の層構造についての総合的知識と理解を確認した。大気圏の問題では、問題図1の温度分布は頻出である。解説の図を参考に、各圏の特徴を整理しておこう。また、地球環境問題と大気圏の構造との関係にも留意して学習を進めよう。

## 問4 10 各選択肢の選択率

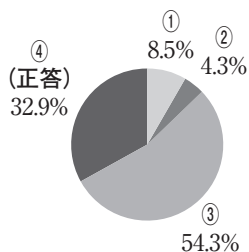


## 第3問 地球の形

## 計算問題にも挑戦しよう。

地球の形についての基礎的理解を確認した。解説を参考に、地球楕円体について知識を整理しておこう。なお、地学基礎で出てくる計算問題は、決して複雑なものではない。問題文をよく読めば、ヒントを読み取ることができるはずである。単位の変換に気を付けて、落ち着いて取り組もう。

## 問1 11 各選択肢の選択率



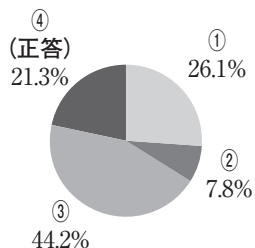
## 第4問 宇宙

## 太陽系の惑星に関する知識を整理しよう。

Aではビッグバン宇宙に関する基礎的知識を確認した。宇宙の始まりから原子や銀河の誕生などは、流れとともにおよその年代も覚えておこう。

Bでは惑星の環境についての総合的理解と簡単な計算力を確認した。解説を参考に、太陽系のそれぞれの惑星について、特徴を整理しておこう。

## 問2 14 各選択肢の選択率



## Ⅲ. 学習アドバイス

## ◆センター試験の地学基礎について。

センター試験の「地学基礎」は新しい科目のため過去問が少なく、学習を進めるにあたって不安もあるだろう。しかし、センター試験の出題範囲は教科書に限られている。センター試験で高得点を得るためには、「教科書」→「問題演習」→「教科書」という流れの学習方法を反復し、教科書を徹底理解することが大切である。

## ◆これからの学習について。

学習にあたって最も大事なことは、地学基礎は暗記科目ではないということである。

「地学基礎」の学習ではまず教科書を通読しよう。教科書を通読したら、今度はできるだけ丁寧に教科書を読んでいこう。大事なことは、各分野それぞれの論理の展開を把握することである。どのような観測や観察、実験がされ、そこからどのような考察がされているのかを理解しよう。そのために、図・表・グラフを正確に読みむ力をつけていこう。図やグラフを正確に読むためには、それを自分でノートに描いてみるのが大切である。描くことで、見るだけではわからなかったポイントが見えてくるはずだ。また、教科書を読むときは用語を暗記しようとするのではなく、その用語がどのように使われているのか、その論理の道筋を理解するようにしよう。

## ◆模試を活用しよう。

「地学基礎」にはセンター試験の過去問が3年分しかなく、演習量が不足しがちである。そのため、模試を演習の一環として学習を進めていくことが重要となる。2か月ごとに実施される東進のセンター試験本番レベル模試は、全国統一高校生テストも含め年6回で「地学基礎」の出題範囲をすべてカバーするため、学習の進み方と学習の不足点を判定できるとてもよい機会である。今後も模試の受験を継続し、着実に得点を伸ばしていこう。